

宮崎大学発 都農町かわら版

令和8年3月号



宮大が都農町寄附講座等
で行っている活動や情報を、
定期的にお知らせします！



寄附講座とは、教育研究の進展及び充実を図ることを
目的として、大学や研究機関などに対し寄附を行い講座を設置する制度です。町として
単独での寄附講座の開設は全国的にも珍しく、**宮崎県内では初めての取り組み**です。

☆☆都農に来る宮大のひとたち紹介☆☆

🍅 都農町トマト機能性研究チーム 🍅

ずし かずふみ

農学部 圖師一文教授、高橋ひろみ研究員
農学科 動植物資源生命科学コース園芸利用学研究室

高品質・高付加価値な園芸農産物の作出に向けて、
トマトを中心に、収穫時・収穫後の食味成分や機能性
成分を測定し、栽培環境の探求やおいしく食べて健康
になれる高品質野菜の研究をしています。

ひと言：研究しながら、都農町には色々なトマトがあり、
どれもおいしいな、と実感しました。これからも付加価
値を高めるお手伝いをできたらと思います。



成分分析の様子

やまさき ゆみ

地域資源創成学部 山崎有美准教授 食品科学研究室

食品の機能に着目し、機能性の評価、機能を発現する因子の
探索、機能を生かした食品の摂取方法の提案、食品成分分析、
加工食品の開発、食育などに取り組んでいます。

ひと言：都農町産トマトの成分を加工特性の観点から解析し、
その特徴を可視化することで、改めて都農町産トマトの魅力
を再認識することができました。都農町にはトマトをはじめとす
る豊かな食資源が数多くあることを実感しています。

道の駅つもの
ワイナリー
うどんと
都農神社に
家族でよく
行きます！



左から山崎、圖師、高橋

コラム

つものまるケア講座 日常の一コマ by 桐ヶ谷先生

医学部

暖かくなり、春の訪れを感じる季節となりました。
桜はやがて散りますが、別れもあれば出会いもあるのが
この季節です。少しの寂しさと、新しい始まりへの期待。
その両方を抱えるのが人間らしさなのかもしれません。

外に出て歩いたり、誰かと語らったりする
ことは、心と体の健康にもつながります。
気分も体もサクラサク日々を目指して、
楽しく春を味わっていきましょう。



3/19 つものまるケアミーティング

今回は、Kenうるおい歯科の黒木健次郎先生→
と熊本県阿蘇さずな歯科医院の我那覇生純先生
による「地域包括ケアにおける歯科口腔医療」に
関するお話でした。初めての歯科医療テーマに約40名が集
まりました。我那覇先生は患者宅や介護施設での「歯科訪
問診療」もされており、口の中の状態と健康の関係性、虫
歯はもとより誤嚥予防の治療やケアが大切と話されました。



黒木先生は、更に地域に密着した
医療を目指し、各施設とのつながり
が重要になると語られました。参加
者からも多くの質問が出て、とても
有意義な時間となりました。



3/6都農町トマト機能性研究の報告会を開催

令和6年度～7年度にかけて、つもの未来財団と宮崎大学で都農
町産トマトの機能性について分析研究を行いました。圖師先生
は大玉・中玉・ミニトマトの成分分析、収穫時期や貯蔵期間に
よる変化などを調査、また山崎先生は、トマトを生の状態から
加工品にする過程で、加熱温度や保存期間によって成分がどの
ように変化するのかを解析しました。

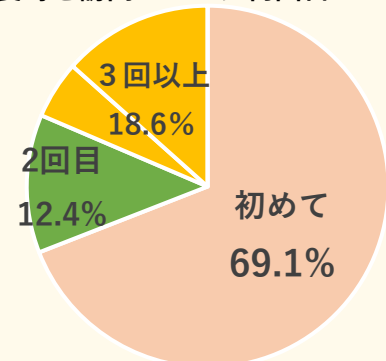
3/6の報告会にて研究報告がありました。今後は調査データ
を活用して、町内産トマトの付加価値を高め、新たな商品開発
を進めていくことが期待されます。サンプルご提供をいただき
ましたトマト農家の皆様、ご協力ありがとうございました。

令和7年度実習,PBL 受講学生アンケート結果

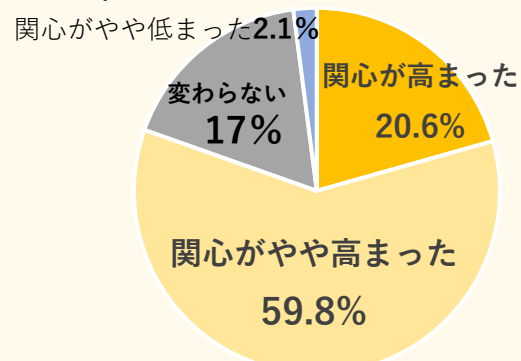
都農で学んだ学生たちのアンケート回答の一部を抜粋してお知らせします。

◎地域学基礎：1年生が5月に都農町内散策し地域資源マップ作りをした授業

Q.都農町を訪問したのは何回目でしたか。



Q.授業後、都農町への関心の変化

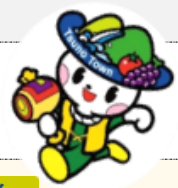


感想自由記述： R7地域学基礎受講後アンケートより N=97

フィールドワークを通して実際に地域の方とお話を聞くことができ、その際には直接声をかけてからインタビューするという貴重な体験をすることができた。

教室の中で考えるのと実際に地域に行き行って考えることは全く違うということがわかりました。実際に実習に行くことでより解決したいという気持ちになったし人の温かみも知ることができました。

そもそも地域資源というものがあやふやだったが、この講義や実習を通して地域の問題やリアルな声を知り、地域資源の解像度が上がりました。これからの学びの土台ができたと感じます。



◎地域探索実習Ⅱ：2年生が7月に口蹄疫メモリアルセンター訪問後、都農ワイン、(株)河野農園、道の駅つなの3グループに分かれて実習

感想自由記述： R7地域探索実習Ⅱ 授業後アンケートより抜粋 N=63

都農ワイナリーが地域に対してどのような影響を与えているのか、どのような経営戦略を取っているのか理解できた。口蹄疫発生時に人々がどのように状況に陥りどのような感情を抱き、どのように復興していたのか理解できた。

口蹄疫について、経験した方から直接お話を聞く貴重な体験をすることができて良かった。道の駅ではおいしいごはんとお土産がたくさんあり、多くの魅力があった。これからも関心を持って都農を訪れたい。

河野農園さんの普段から行っている努力と経営理念を詳しく知ることができて良かった。また都農町に来ることは4回目だが、来るたびにその魅力を知ることができて大変大きな学びとなった。



◎PBL I/Ⅱ：1,2年生がイベントなどを企画実践する選択授業

Q. PBLの授業を通して都農町で活動してどのような学びがあったか。

自身で一から企画し運営も行いイベントを行う大変さや、地域の中で活動する中で地域の方々との交流の大切さや難しさを実感した一方で地域の中に入って様々な世代の方と交流することの楽しさを学んだ。

一年間のPBLの授業を通して都農町で活動する中で、都農町にしかない地域資源を活用した地域貢献を考えることの意義を学びました。汎用的な課題解決策を立案しプロジェクトとして遂行するのではなく「都農町だからこそできること」を考え、地域貢献につなげていく経験は、PBLならではの学びであったと感じています。

Q. 都農町ならではのエピソードや印象に残ったこと、受講の感想

都農町内の方々がたくさん関わってくださったことです。色んな方とお話したり、交流ができたことがとても嬉しかったです。

プロジェクトで訪れる大学生に対して温かいまなざしを向けて応援してくれると感じました。また、町民の皆さんが都農町を強く愛していることに気付きました。



PBLを受講してみて地域を盛り上げる楽しさを知った。準備は大変だったが、参加者の楽しそうな姿を見て、やってよかったと感じた。

★来年度の1年生に受講を勧めたいかの質問にはYES回答100%でした。

R7 PBL I/Ⅱ 授業後アンケートより抜粋 N=12

予告

都農町民ワークショップにぜひご参加を!

4月下旬～6月初旬に小学校区ごとの住民ワークショップが、各校区2回ずつ開催されます。10年後を見据えた町の長期総合計画をまとめるにあたり住民意見を集める場です。住民の皆様が世代を交えて町と自分の将来を話し合う、10年に一度の貴重な機会です。中学生以上の多年代の皆様を各地区40名ほどを募集します。

日程などは週報、案内チラシを確認ください。今回のワークショップは、地域学部の大学生を交え、AIを活用して意見をまとめる試みもあり、楽しい皆様の学びの場になることが期待されます。ぜひご参加ください! 問い合わせ:企画課 0983-25-5711



デジタル版

編集・作成：宮崎大学研究・産学地域連携推進機構
発行日：2026年3月25日（原則毎月発行）
発行元：一般財団法人つの未来まちづくり推進機構
問い合わせ：0983-32-1270（つの未来財団）